



TITLE:

京大広報 No. 501 別冊

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 501 別冊. 京大広報 1996, 501b: 20-34

ISSUE DATE:

1996-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209272>

RIGHT:



# 京大広報

No. 501 別冊

1996. 4

## 目次

### 〈資料〉

平成7年度京都大学教育研究学内特別経費による研究課題……………	21
平成7年度京都大学後援会助成金交付者一覧……………	27
京都大学国際教育プログラムの実施について（第一次報告）……………	30

## 平成7年度 京都大学教育研究学内特別経費による研究課題

本年度の教育研究学内特別経費による研究課題および代表者等は、次のとおりであった。

## 1. 一般分

研 究 課 題	代表者所属・職・氏名	参加者所属部局
舎密局・三高関係の資料の整理と収納	総合人間学部 教 授 川端 善明	総合, 人間
京都大学女性研究者の研究状況調査研究	総合人間学部 助教授 田邊 玲子	総合, 理, 農, 工, 人文研
視聴覚機器一式 (LL システム)	総合人間学部 助教授 田邊 玲子	総合
社会, 言語, 認知: 新しい人間科学の創造をめざして	総合人間学部 助教授 杉万 俊夫	総合, 人間
京都大学卒業生のライフスタイルと健康・寿命との関連	総合人間学部 教 授 中村栄太郎	総合, 医, 経済
東洋の文化と大学教育	文 学 部 教 授 川合 康三	文
地域研究と博物館活動	文 学 部 教 授 佐々木丞平	文, 総合, 人文研
法学教育における教授方法の多様化に関する総合的研究	法学研究科 教 授 奥田 昌道	法
情報技術の発展と法学・政治学の研究教育環境の変容	法学研究科 教 授 安藤 仁介	法
マルチメディア教育支援システムとインターネットによる経済学・経営学教育の改善の研究	経 済 学 部 学部長 菊池 光造	経済, 経済研
理学ミニ博物館展示計画	理学研究科 研究科長 鎮西 清高	理
Summer Student Program の先進的試行	理学研究科 助教授 延与 秀人	理
京都大学における物質・材料の解析, 評価機器の現状と将来の需要に関する調査	理学研究科 教 授 志田 忠正	理, 医, 薬, 工, 農, 総合, 人間, 化研
京都大学総合博物館設立計画のための調査研究	理学研究科 教 授 河野 昭一	理, 農, 工, 薬, 医, 文, 総合, 人間, 生態学, 東南, アフリカ, 霊長研
実験・観察型生理学教育の推進プロジェクト	医学研究科 教 授 野間 昭典	医
画像診断卒後教育方法の開発	医学部附属病院 教 授 小西 淳二	病院, 医
チュートリアル方式による問題解決型カリキュラムに関する調査研究	医学部附属病院 教 授 福井 次矢	病院
歩行分析	医学部附属病院 教 授 中村 孝志	病院
薬学教育研究における分子生物学の情報と技術の体系化	薬 学 部 学部長 市川 厚	薬
「工学研究」のデータベース化とインターネットへの情報発信	工 学 部 教 授 池田 克夫	工
工学分野に関連する新研究科諸構想の全体像に関する研究	工 学 部 教 授 土岐 憲三	工
カリキュラムの体系化 ―シラバスの作成	農 学 部 教 授 古澤 巖	農
農学部講義室 学生用講義机・椅子の増設及び更新	農 学 部 学部長 丸山 利輔	農
発ガンプロモーションを促進する食品成分を解析するためのシステム	農 学 部 教 授 佐々木隆造	農, ウイルス研
亜熱帯植物実験所内照葉樹林の学術的意義に関する情報伝達手段の調査整備	農学部附属農場 教 授 矢澤 進	農場
地方演習林における学生実習の教育環境整備	農学部附属演習林 教 授 竹内 典之	演習林

研 究 課 題	代表者所属・職・氏名	参加者所属部局
白浜試験地で45年間に収集されたアカシア、ユーカリ類 —南半球からの導入樹種の生育に関する資料整理—	農学部附属演習林 助教授 安藤 信	演習林，農
競合環境系における秩序化過程と揺らぎ	人間・環境学研究科 助教授 前川 覚	人間
環境にやさしい大学生活の創造	環境保全センター 教 授 高月 紘	環境，学生
21世紀の世界とアフリカ地域研究の課題：大学院教育の将来像を求めて	アフリカ地域研究センター センター長 田中 二郎	アフリカ，東南
ネットワーク（KUINS，インターネット）による分子生物，組換え DNA 実験・研究情報発信のための広範な情報の収集	遺伝子実験施設 教 授 清水 章	遺伝子，医，理，ウイルス研
高等教育教授システムの開発	高等教育教授システム開発センター 教 授 梶田 穀一	高等教育
東南アジア地域に関する研究・教育情報の交流促進に向けたコンピュータネットワーク整備	東南アジア研究センター 所 長 坪内 良博	東南
高度医療を支えるためのコメディカルの卒後研修	医療技術短期大学部 教 授 笹田 昌孝	医短
放射性同位元素を利用した生体反応の新規高感度分析法の開発と応用	化学研究所 教 授 小田 順一	化研
「明末清初の社会と文化」共同研究班の共同研究と研究報告出版	人文科学研究所 教 授 狭間 直樹	人文研
MAC 感染症の発病に関わる肺胞マクロファージと血中単球との発症抑止力の比較研究	胸部疾患研究所 教 授 久世 文幸	胸部研，病院
エネルギー理工学研究の重点課題	原子エネルギー研究所 所 長 西川 禪一	原エネ研，ヘリオトロン，工，理，人間
木材樹種の検索システムの構築	木質科学研究所 教 授 伊東 隆夫	木研，農
細胞死誘導レセプター分子 Fas の個体発生への関与に関する調査研究	ウイルス研究所 教 授 米原 伸	ウイルス研，医
計算流体力学における高速アルゴリズムの研究と教育	数理解析研究所 教 授 岡本 久	数研
電子ビームによるコヒーレントなミリ波光量子放射と物性応用に関する研究	原子炉実験所 教 授 松山 奉史	原子炉，理，工
熱帯林研究の現状と展望	霊長類研究所 教 授 加納 隆至	霊長研，理，生態学，アフリカ，東南
図書館業務の簡素・合理化及び利用者サービスの向上	附属図書館 館 長 長尾 眞	図書館
附属図書館における教育・研究設備の充実	附属図書館 館 長 長尾 眞	図書館
京都大学関係史料の保存と利用に関する予備的研究	附属図書館 館 長 長尾 眞	百年史編集史料室，庶務部
学生の修学，キャンパスライフを支援する大学システムの在り方に関する調査研究	学 生 部 部 長 瀬地山 敏	学生部，体育指導センター，留学生センター
先進諸国における大学の体育施設に関する調査・研究	体育指導センター 助教授 井街 悠	体育指導センター，農
京都大学施設長期計画策定の調査研究	施 設 部 工学部教授 川崎 清	施設部，工
21世紀の京都大学のあり方についての調査研究	将来構想検討委員会 法学研究科教授 佐藤 幸治	将来構想検討委員会
京都大学におけるキャンパス問題についての調査研究	新キャンパス委員会 副委員長 西川 禪一	新キャンパス委員会
京都大学教職員の過去7年間（1989～1995）の人間ドックデータの分析とその健康教育への応用	保健管理センター 所 長 森下 玲児	保健診療所，保健管理センター



## 2. 特別分 (大学院分)

研 究 課 題	代表者所属・職・氏名	参加者所属部局
大学院における高度語学教育の方法	文 学 部 教 授 吉 田 城	文
ティーチング・アシスタント (TA) 制度の現状と将来像に関する実証的研究	教 育 学 部 助 教 授 子 安 増 生	教育
相談室におけるリラクセーションプログラムの導入	教 育 学 部 助 教 授 岡 田 康 伸	教育
法学研究科専修コース実績評価プロジェクト	法学研究科 研究科長 村松 岐夫	法
インターンシップ (実地研修) など大学内外間知的交流の拡大による経済学・経営学大学院教育の改善に関する研究	経 済 学 部 学 部 長 菊 池 光 造	経済
動物の分子系統学的解析手法の教育と実践	理 学 研 究 科 教 授 佐 藤 矩 行	理
京都大学構内及び周辺の活断層の詳細分布調査と活動履歴の推定	理 学 研 究 科 教 授 尾 池 和 夫	理, 埋文センター, 施設部
極限環境下での実験のための基盤整備	理 学 研 究 科 教 授 水 崎 隆 雄	理
極低照度光学実験室と教育システムの整備	理 学 研 究 科 助 教 授 大 谷 浩	理
具体例による高等数学の研究	理 学 研 究 科 教 授 吉 田 敬 之	理
ダイナミックな物理現象や立体的情報をもった物理現象の視覚化とそのプレゼンテーションの試み	理 学 研 究 科 助 教 授 堀 内 昶	理
地球観測データのリアルタイム取得と表示システムの開発および教育研究利用	理 学 研 究 科 助 教 授 家 森 俊 彦	理, 防災研
形質転換植物を用いた遺伝子機能の解析	理 学 研 究 科 教 授 岡 田 清 孝	理
地球内部構造研究用地震計アレイ建設をめざした試験的基礎研究	理 学 研 究 科 助 教 授 中 西 一 郎	理, 防災研, 総合, 工
同一剖検脳への分子遺伝学診断と病理・電顕組織化学・生化学的手法の導入 —新しいブレインバンクシステムの開発	医学部附属病院 助 教 授 秋 口 一 郎	病院
遺伝子改変モデル動物を用いた長寿医学の分子医学的研究	医学部附属病院 教 授 北 徹	病院
精巣腫瘍の生物学的悪性度に関連する分子生物学的パラメーターの検索	医学部附属病院 助 手 小 川 修	病院
京大・阪大医学研究科ボーダーレス化のためのハイビジョン臨床教育研究教材の作成	医学部附属病院 教 授 高 橋 隆	病院, 医 (阪大医・阪大病院)
大学院における遺伝子診断の包括的教育	医学部附属病院 教 授 森 徹	病院
トランスジェニックブタを用いた糖尿病治療用インスリン分泌B細胞株の樹立	医学部附属病院 助 教 授 井 上 一 知	病院, 農, 生体医療
薬学領域における遺伝子応用技術に関する大学院教育・研究システムの確立	薬 学 部 教 授 伊 藤 信 行	薬
工学研究科シラバスのデータベース化と活用に関する開発研究	工 学 部 教 授 万 波 通 彦	工
材料学に関する新研究科設立構想の調査研究	工 学 部 教 授 升 田 利 史 郎	工, 人間, 化研, 生体医療
農学分野における放射性同位元素有効利用のための教育方法の整備と体系化	農 学 部 教 授 伏 木 亨	農
森林の公益的機能評価に関する研究	農 学 部 教 授 小 橋 澄 治	農
衛星写真を利用した森林管理システムの構築	農学部附属演習林 教 授 竹 内 典 之	演習林
演習林における地形情報のデジタル化による教育研究環境の整備	農学部附属演習林 教 授 川 那 辺 三 郎	演習林
大学院教育における自然環境解析学習法の構築	人間・環境学研究科 教 授 堀 智 孝	人間, 総合, ウイルス研
画像による高度情報教育・研究の推進	人間・環境学研究科 助 教 授 山 本 行 男	人間

研 究 課 題	代表者所属・職・氏名	参加者所属部局
マルチメディア・ネットワークの構築によるアフリカ地域研究の大学院教育・研究体制の整備	アフリカ地域研究センター センター長 田中 二郎	アフリカ
京大環境フォーラムのネットワークの構築	生態学研究センター 教 授 安部 琢哉	生態学, 理, 農, 工, 経研, 超高層, 人間, 人文研, 東南アジア
生物による資源アーキテクチャー形成—生物多様性の維持にはたす役割に注目して—	生態学研究センター 教 授 井上 民二	生態学, 理, 農, 総合
教授法改善に対応した高度一般教育の在り方についての調査研究	高等教育教授システム開発センター 教 授 梶田 叡一	高等教育
エネルギー科学研究科の教育・研究体制及び社会との連携	原子エネルギー研究所 教 授 笠原三紀夫	原エネ研, 工, ヘリオトロ ン, 原子炉, 農, 経済研, 理, 総合
細菌接着の分子機構と病態との関連解明	食糧科学研究所 教 授 村田 幸作	食研, 胸部研, 薬, 工, 農
大学院学生用図書	附属図書館 館 長 長尾 眞	図書館

## 3. 学術研究奨励金

## 【人文・社会】系

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名
ローマ文学におけるペルソナの研究	文 学 部 助教授 高橋 宏幸
学校管理運営の効率性に関する研究 —アメリカ合衆国, イギリス, ドイツにおける教育改革の比較分析—	教 育 学 部 助 手 南部 初世
日本の外交・安全保障政策過程の制度的研究	法 学 研 究 科 助教授 中西 寛
東南アジア地域のグローバル化に関する研究: 進化経済学的アプローチ	東南アジア研究センター 助教授 池本 幸生
チンパンジーとヒトにおける注意の抑制的機能に関する比較認知的研究	霊長類研究所 助 手 友永 雅己

## 【理学・工学】系

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名
広帯域誘電測定によるガラス転移の研究	総合人間学部 助 手 深尾 浩次
半導体結晶における励起子のボース凝縮の検証	総合人間学部 助 手 渡邊 雅之
超低速中性原子の状態選択的衝突反応と光誘起効果	理 学 研 究 科 助 手 石川 潔
無限個の正則化場にもとづくカイラルゲージ理論の非摂動的定式化とその応用	理 学 研 究 科 助 手 菊川 芳夫
Ridler 時空でのストリングの場の理論	理 学 研 究 科 助 手 矢彦澤茂明
アンモナイト化石に見られる殻破損の原因究明	理 学 研 究 科 助教授 前田 晴良
エアセンシティブな C <sub>60</sub> 錯体結晶の構造および物性研究	理 学 研 究 科 助 手 大塚 晃弘
エキストラジオール型二原子酸素添加酵素の構造化学的研究	理 学 研 究 科 助 手 喜田 昭子
超臨界流体における電荷移動錯体の共鳴ラマン	理 学 研 究 科 助 手 木村 佳文
有機ポリビスマス化合物の設計と機能性材料への応用	理 学 研 究 科 助 手 俣野 善博
C <sub>60</sub> 生成に関与する炭素クラスターのマトリックス単離に関する基礎研究	理 学 研 究 科 助 手 若林 知成
廃棄物の低温液相酸化による再資源化	工 学 部 助教授 前 一廣
自己集積型ナノスケール電極の構築法の開拓と電気化学計測への応用	工 学 部 助 手 小山 宗孝
多中心性ルイス酸の合成とその触媒作用に関する研究	工 学 部 助 手 野崎 京子
分子サイズ・形状選択性を有する光触媒反応系の開発	工 学 部 助 手 大谷 文章
天然ガスの化学工業原料への新規直接変換法の開発	工 学 部 助 手 和田 健司



研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名
温和な条件下での炭酸ガス固定化による炭化水素の創製	工 学 部 助 手 田中 庸裕
油—水—固体 3相系の界面現象を利用した微粒子の分離に関する基礎的研究	工 学 部 助 手 日下 英史
森林流域における統合型水文化学モデルの開発	農 学 部 講 師 大手 信人
地球磁気圏尾部領域における静電孤立波の研究	超高層電波研究センター 助教授 大村 善治
フルオロ酢酸デハロゲナーゼの触媒反応機構の解析	化学研究所 助 手 栗原 達夫
ニコチンアミド補酵素類縁体の反応の非立体的立体化学	化学研究所 教務職員 山崎 教正
フラーレン—有機ポリマーハイブリッド材料の創製と機能	化学研究所 助 手 箕田 雅彦
二段階レプリカ法による超規則性ナノポア・ハニカム構造を有する高分子薄膜の作成	化学研究所 助 手 辻井 敬亘
水圏の微量元素の動態と生物活動の相互作用	化学研究所 助 手 宗林 由樹
結合共鳴を利用した三次元レーザー冷却法の研究	化学研究所 助 手 岡本 宏巳
スピン 1/2 梯子格子における高温超伝導の可能性の追及	化学研究所 助 手 東 正樹
土壤中微量環境汚染元素の動態に腐植物質の及ぼす影響に関する研究	原子炉実験所 助 手 藤川 陽子
短パンチ電子ビームからのコヒーレント放射を用いた遠赤外分光計測法の研究	原子炉実験所 助 手 高橋 俊晴

## 【医学・生物】系

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名
後根神経節における感覚ニューロンの空間的分布	総合人間学部 助教授 石原 昭彦
標的遺伝子破壊法を用いた植物の花芽形態形成遺伝子の機能解析	理学研究科 助 手 荒木 崇
ヘリックス・ループ・ヘリックス型転写制御因子 HES-1 の発現制御	医学研究科 助 手 石橋 誠
顎・顔面の形態形成および異常発生における神経堤細胞の遊走とプログラム細胞死（アポトーシス）の関係について	医学研究科 助 手 滝川 俊也
Na <sup>+</sup> -Ca <sup>2+</sup> 交換の抑制についての分子生理学的及び電気生理学的研究	医学研究科 助 手 松岡 達
新規核内 GTPase 活性化蛋白の性状ならびにその機能破綻に基づく細胞周期の異常についての解析	医学研究科 助 手 服部 雅一
アンジオテンシン受容体ファミリー（AT <sub>1</sub> , AT <sub>2</sub> 受容体）の生理的および病態生理的意義に関する分子生物学的研究	医学部附属病院 助 手 向山 政志
インテグリンによる卵胞発育および卵胞閉鎖への分化制御	医学部附属病院 講 師 藤原 浩
テロメア長及びテロメラーゼ活性を用いた尿路性器腫瘍の悪性度判定	医学部附属病院 助 手 小川 修
ラット中脳ドーパミンニューロン前駆細胞の不死化	医学部附属病院 助 手 寶子丸 稔
糖蛋白ホルモン受容体異常の遺伝子診断	医学部附属病院 助 手 小杉 眞司
薬物と糖タンパク質との相互作用における糖鎖構造の影響の立体選択的超微量解析	薬 学 部 助 手 澁川 明正
糖修飾高分子キャリアーによる遺伝子の細胞特異的ターゲティング	薬 学 部 助 手 西川 元也
DNA 切断フラボノイド ACGa1 の機能発現：不活性分子集合による活性分子への変換	薬 学 部 助 手 飯田 彰
新規インスリンファミリーペプチドの単離と生理活性の解明	薬 学 部 助 手 尾崎 恵一
CO <sub>2</sub> ポンプ遺伝子の単離と植物の環境適応機構	農 学 部 助教授 福澤 秀哉
プロテインキナーゼCアイソザイム選択的アゴニストの合成研究	農 学 部 助 手 入江 一浩
細菌の子ロシフェノールリアーゼの転写調節因子（TyrR）に関する研究	農 学 部 助 手 鈴木 秀之

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名
マウス受精卵の胚ゲノムの活性化と発生停止におよぼす卵管の影響	農 学 部 助 手 南 直治郎
植物—植食者—補食者が構成する生態的三角関係	農 学 部 助 教授 高 林 純示
ヒト免疫グロブリン V <sub>H</sub> 全領域の構造解析	遺伝子実験施設 助 手 松 田 文彦
p53 欠損マウスを用いた分化間葉系細胞系の樹立	生体医療工学研究センター 助 教授 戸 口 田 淳也
時間分割X線結晶解析によるグルタチオン合成酵素の動的構造	化学研究所 助 手 加 藤 博章
生体膜の融合をコントロールする分子機構の解明	食糧科学研究所 助 教授 福 岡 伸一
マウス AIDS (MAIDS) ウイルスの gag 遺伝子産物による細胞増殖機構の解析	ウイルス研究所 助 手 久 保 嘉直
T細胞免疫応答のレドックス制御	ウイルス研究所 助 手 中 村 和史
多機能膜 ATPase, FtsH の機能と構造の解析	ウイルス研究所 助 手 秋 山 芳展
ニホンザルの性腺機能調節機序	霊長類研究所 助 手 大 蔵 聡
前頭連合野の機能モジュールの in vitro の光学測定	霊長類研究所 助 手 澤 口 俊之
コンピュータ制御による小型霊長類歯牙化石の拡大模型の作製	霊長類研究所 助 手 高 井 正成

## 学術出版助洗金

## 【人文・社会】系

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名
The Development and Education in the Childhood —The Constructive Theory of Subject-Object Activity in Human Development—	総合人間学部 助 手 田 中 真介

## 【医学・生物】系

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名
聴覚における時間分解能の役割	医学部附属病院 助 手 篠 原 尚吾



## 平成7年度京都大学後援会助成金交付者一覧

京都大学後援会助成事業検討委員会で決定した平成7年度第1類（国際交流事業関係）助成金交付者は、第1種（海外派遣）39名、第2種（海外からの学者招へい）12名、第4種（大学行政上の渡航）6名で、それぞれ次のとおりであった。

## 1. 第1類第1種（海外派遣研究員）

本学教官（若手研究者・国際研究集会にあっては、大学院博士後期課程学生を含む。）が専攻する学問分野等について調査研究のため、海外に派遣される場合に、助成金（往復航空賃および滞在費）を交付するもので、派遣区分は、若手研究者・長期（10カ月）、若手研究者・国際研究集会および1カ月である。

派遣区分		所属部局等	職名等	氏 名	主な訪問機関・国等	研 究 題 目 (国際研究集会等名)
若 手 研 究 者	長期	総合人間学部	助 手	田部勢津久	ラトガース大学 (アメリカ合衆国)	光機能性ガラスの構造制御と機能 発現に関する研究
		文 学 部	教 授	南川 高志	ロンドン大学古典学 研究所等 (連合王国等)	ローマ帝国政治史史料の研究
		経 済 研 究 所	助教授	照山 博司	ボストン大学 (アメリカ合衆国)	世代間資産伝達のシミュレーショ ン分析
	国 際 研 究 集 会 (教官)	総合人間学部	助 手	竹本 篤史	アメリカ合衆国	視覚眼科学国際学会年次大会
		総合人間学部	助 手	深尾 浩次	イタリア	過冷却液体・ガラス・アモルファ ス物質における非平衡現象に関す る研究集会
		理学研究科	助 手	吉田 伸生	シンガポール	第23回確率過程とその応用会議
		医学研究科	助教授	影山龍一郎	フランス	欧州発生生物学会国際会議
		薬 学 部	助教授	大高 章	アメリカ合衆国	第14回アメリカンペプチドシンポ ジウム
		工 学 部	助 手	鈴木 哲夫	アメリカ合衆国	第 5 回国際吸着会議
		工 学 部	助 手	井村 順一	イタリア	第 3 回ヨーロッパ制御会議
		工 学 部	助 手	石田泰一郎	ドイツ連邦共和国	ヨーロッパ視覚認識会議
		工 学 部	助 手	新苗 正和	アメリカ合衆国	第19回国際選鉱会議
		化学研究所	助 手	後藤 弘爾	アメリカ合衆国	ゴードン研究会議—植物細胞遺伝 学と発生学—
		化学研究所	助 手	河内 敦	アメリカ合衆国	第 8 回有機合成指向有機金属化学 国際会議
		防災研究所	助 手	勝見 武	デンマーク	第11回土質基礎工学ヨーロッパ会 議
		原子炉実験所	助 手	徐 虬	ロシア	第 7 回核融合炉材料国際会議
		東南アジア研 究 セ ン タ ー	助 手	阿部 健一	オランダ	変容下のリアウ：周辺地域のグ ローバリゼーション
	(大学 院生)	工学研究科	博士後 期 2 年	田中 学	ノルウェー	第15回国際音響会議
		工学研究科	博士後 期 3 年	永野 真吾	ドイツ連邦共和国	第 7 回国際生物無機化学会
		工学研究科	博士後 期 2 年	蒲 書斌	アメリカ合衆国	1995環太平洋国際化学会議
		農学研究科	博士後 期 3 年	金 光植	アメリカ合衆国	1996年度国際受精卵移植学会
		農学研究科	博士後 期 2 年	木村 聡	アメリカ合衆国	アメリカ植物生理学会大会
		人間・環境学 研 究 科	博士後 期 3 年	小澤真一郎	フランス	第10回国際光合成会議
		人間・環境学 研 究 科	博士後 期 3 年	飯田 博一	台湾	第15回複素環化学国際会議
		人間・環境学 研 究 科	博士後 期 2 年	角山 雄一	フランス	第10回国際光合成会議

派遣区分	所属部局	職名	氏名	主な訪問機関・国等	研究題目 (国際研究集会等名)
1 カ月	総合人間学部	教授	岡田 敬司	パリ第八大学 (フランス)	制度主義教育論の現在の動向に関する研究
	総合人間学部	助教授	服部 文昭	ヘルシンキ大学 (フィンランド)	非スラブ語圏におけるロシア・スラブ研究について
	経済学部	教授	中野 一新	コーネル大学 (アメリカ合衆国)	アメリカ合衆国の農業構造とアグリフード・システムに関する研究
	経済学部	助教授	塩地 洋	ロンドン大学 (連合王国)	イギリスにおける自動車ディーラーの研究
	理学部	助手	亀井 豊永	コロラド大学等 (アメリカ合衆国等)	地磁気 AE インデックス作成に関する研究
	医学研究科	助手	赤水 尚史	ボーマン大学等 (アメリカ合衆国等)	自己免疫性甲状腺疾患の遺伝因子に関する研究
	医学研究科	助手	小野 孝彦	王立メルボルン病院 (オーストラリア)	凝固による糸球体内皮障害に関する研究
	薬学部	助教授	黒田 義弘	シドニー大学 (オーストラリア)	局所麻酔剤の作用機序解明に関する研究
	工学部	助手	笠原 禎也	宇宙物理研究所 (スウェーデン)	あけぼの・Freja 衛星による極域波動粒子相互作用に関する研究
	農学部	教授	矢野 秀雄	アイオワ州立大学 (アメリカ合衆国)	反芻動物に関する栄養生理学的研究
	人間・環境学 研究科	助教授	新宮 一成	ヴェネチア精神分析 研究所等 (イタリア等)	精神分析学の社会的役割に関する研究
	医療技術短期 大学部	教授	濱 弘道	デューク大学 (アメリカ合衆国)	スポーツ活動による筋損傷とその治療に関する研究
	胸部疾患 研究所	講師	西村 浩一	国立心臓・肺研究所 (連合王国)	慢性閉塞性肺疾患における無作為割付臨床試験法についての研究
	基礎物理学 研究所	助教授	阿部 恭久	ポールサバティエ大学 (フランス)	原子核及びメソスコピック系に於ける動力学に関する研究

## 2. 第1類第2種 (海外からの学者招へい)

海外から学者、研究者を本学に招へいし、学術活動の発展を図るとともに、本学との共同研究の基盤を固めるため、助成金 (往復航空賃および滞在費) を交付するもので、招へい区分は若手研究者 (10カ月) 及び一般 (1カ月～2カ月) である。

区分	受入部局	招へい学者名	国(地域)名・所属機関・職名	研究題目
若手研究者	経済学部	Lim Sang Oh	大韓民国・尚志大学・助教授	文化経済学の理論と応用に関する基礎的研究
	工学部	Albert Cornelis van Bevel	スウェーデン・ユメオ大学環境化学研究所・研究生	有機塩素化合物の同時分析手法の開発と廃棄物試料への適用に関する研究
	農学部	Long-Ying Dong	中華人民共和国・中国科学院上海植物生理研究所・準教授	植物炭酸固定能の増強に関する基礎的研究
一般	医学研究科	Diether Neubert	ドイツ連邦共和国・ベルリン自由大学・教授	哺乳類の正常及び異常発生の分子機構とその制御に関する研究
	薬学部	Terrence R. Burke, Jr.	アメリカ合衆国・国立ガン研究所・国立衛生研究所・主任研究員	ホスファターゼ抵抗リン酸化アミノ酸含有ペプチドをリード化合物とする抗癌剤の開発に関する研究
	工学部	Michael Finkenthal	イスラエル・ヘブライ大学・教授	トカマクのプラズマ分光学に関する研究及び科学哲学に関する研究
	工学部	Jean Francois Biellmann	フランス・ルイパスツール大学・教授	生化学機能分子に関する研究
	農学部	Bungaran Saragih	インドネシア・ボゴール農業大学開発研究所・所長	農村発展問題の日本・インドネシア間比較研究
	人間・環境学 研究科	Pierre Skiriarabine	フランス・(財) ル シャンフロイディアン国際交流事務局長	精神分析学の社会的役割に関する研究

区 分	受 入 部 局	招へい学者名	国(地域)名・所属機関・職名	研 究 題 目
	化学研究所	Nitash Balsara	アメリカ合衆国・ポリテクニク大学・準教授	ブロック共重合体の力学的及び光学的性質に関する研究
	ウイルス研究所	Haim Manor	イスラエル・テクニオン・イスラエル工科大学・教授	転写因子によるポリオーマウイルス DNA 複製の制御に関する研究
	数理解析研究所	Carlo Becchi	イタリア・ジェノヴァ大学・教授	BRS (ベッキー・ルーエ・ストラ) 対称性に関する研究

### 3. 第1類第4種 (大学行政上の渡航および大学間協定校との交流)

総長および総長が大学行政上特に必要と認めた者の海外渡航に対し、助成金を交付するものである。

所属・職名	氏 名	渡 航 目 的 国 (地 域 名)	主 な 訪 問 機 関	派 遣 目 的
庶務部 国際交流課長	森重 和子	アメリカ合衆国	カリフォルニア大学 バークレー校等	アメリカ合衆国の諸大学における教育、研究状況調査
経済学部 教授	渡邊 尚	ドイツ連邦共和国	ハイデルベルグ大学	ハイデルベルグ大学 (大学間協定校) 主催によるシンポジウム「降服からの50年～世界の中の日本とその歴史的見方の変化」
留学生センター 教授	家本 太郎	アメリカ合衆国	ワシントン大学等	1995年日本留学フェア参加
学生部 留学生課長	太田 恵雄	連合王国	ケンブリッジ大学等	学生交流及び学生厚生施設の調査研究
事務局 長	中林 勝男	タイ インドネシア共和国	タマサート大学等	タイ及びインドネシアの大学の教育研究活動の実態調査並びに東南アジア研究センター連絡事務所の管理運営の現状視察
庶務部 国際交流課 国際交流掛主任	吉田 保裕	タイ	カセサート大学等	協定締結大学等における本学との国際交流活動 (留学生の派遣を含む) 及び大学等訪問機関の組織とその管理運営状況調査



## 京都大学国際教育プログラムの実施について

京都大学が平成9年10月から実施を計画している短期留学プログラムについて、国際教育プログラム準備委員会から中間的な報告がありましたので、ここに全文を掲載します。

報告では、短期留学制度の意義、国際教育プログラムの概要、実施体制、および実施に必要な条件・基盤整備等について提言されており、平成8年3月26日に開催された部局長会議において、外国の協定校等の学部留学生を受け入れる本プログラムを積極的に支持し、推進していくことが了承されました。また同時に、本学の学部学生の協定校等への送り出しについても積極的に推進していくことが確認され

ました。

京都大学が国際化時代に活躍できる人材を育成するためには、様々な施策が必要であり、その一つとして計画された国際教育プログラムを成功させるためには、全学的なご協力とご支援が必要であり、この機会に広く学内のご理解を得たいと思います。

本プログラムの検討を進め、引き続きご尽力いただく委員各位、および提供される教育科目の講師をお引き受けいただいた先生方に謝意を表します。

平成8年4月1日

総 長 井 村 裕 夫

## 京都大学国際教育プログラムの実施について（第一次報告）

平成8年3月14日

国際教育プログラム  
準備委員会

### I はじめに

近年、諸外国とくに欧米諸国を中心に留学生交流の新たな傾向として、母国の大学に在籍したまま1学期間もしくは1学年間程度の期間、外国の大学に留学する、いわゆる短期留学が活発になってきている。文部省は、この短期留学を積極的に支持し、短期留学推進制度（奨学金制度）の創設など、短期留学を支援する施策を急速に展開している。

こうした動きに対応して、京都大学においては、昨年の9月に国際交流委員会が学部学生レベルの短期留学生を受け入れて、本学の正規課程学生と一緒に英語で教育を行う「京都大学国際教育プログラム」の実施とそのための準備委員会の設置を提言した。

提言を受けて発足した本準備委員会は、昨年12月に第1回目の会合を開催して以来、短期間に集中的に検討を重ね、提供する教育科目の内容とプログラム実施に必要な条件整備等について、以下のような結論をえた。

### II 短期留学制度の意義

母国の大学に在籍したまま留学する短期留学は、学位の取得を目的として正規課程に入学する一般の留学とは異なり、留学が修了すれば再び母国の大学に戻り学業を続けるという形態をとる。国際教育プログラムは、短期留学制度の主として「受け入れ」に関するプログラムである。

京都大学において、国際教育プログラムをその一部とする、学部学生のための短期留学制度を実施する意義は、次の点にあると考えられる。

- ① 現代社会では、社会生活のいろいろな分野で国際化が浸透し、また、長寿化が定着している。したがって、高等教育の初期の段階で外国で生活、学習し、それを通じて外国の文化に触れることで、学生がより広い背景と展望をもって、将来の経路を築くことができるようになる。
- ② 高等教育の初期の段階に外国で生活、学習するという体験は、他の時期の段階にくらべ、外

国語、外国社会に対する理解をいっそう深めることが可能になり、よりよい国際社会の形成に貢献する人材を育成できる。

- ③ 英語で行う国際教育プログラムは、高等教育を含む日本文化、日本社会に関心を持ちながら、言語的にハンディの大きい欧米、オセアニア等の学生により広い機会を与えることができる。
- ④ 国際教育プログラムは、全学共通科目の一環として行われる計画である。このプログラムは、学際的な教育内容を持つように企画されているので、京都大学の正規学生にも新鮮な魅力を持ったコースになる。
- ⑤ 外国における異なった様式の高等教育を受けた学生を教育することは、同時に京都大学における高等教育を評価することでもある。この教育体験は、教授方法の多様化、全学共通科目および学部教育のあり方について、課題発見的な効果をもつと思われる。

### Ⅲ 国際教育プログラムの概要

#### 1 名 称

邦文：京都大学国際教育プログラム

英文：Kyoto University International Education Program (KUINEP)

#### 2 目 的

諸外国の大学から学部学生レベルの留学生を1年間程度受け入れて、正規課程の学生とともに英語で教育することにより、留学生および京都大学学生の国際性を育成し相互交流を活発にする。

#### 3 学 期

1年間のプログラム（2学期制）とし、1学期の履修も可能とする。

前期（第Ⅰ期）10月～3月

後期（第Ⅱ期）4月～9月

（授業休止、自主研修期間は、本学の学暦に準ずる。）

#### 4 学生の募集及び選考

- (1) プログラムの留学生定員は20名とし、本学と学生交流協定のある世界各国の大学に在籍する学部学生（概ね3年次生）を対象に募集する。
- (2) 対象学生は、勉学に支障のない英語力を条件

とする。日本語の学習経験は条件としないが、150時間程度の渡日前の日本語学習を奨励する。

- (3) 受け入れ留学生（以下「プログラム生」という。）の選考は、学生の所属する母国の大学の推薦に基づき、京都大学が行う。

#### 5 学生の所属及び身分

- (1) プログラム生は、その専攻と本人の希望に応じて関係する学部<sup>1</sup>に所属させる。
- (2) プログラム生の身分は、特別聴講学生とする。

#### 6 教育内容及び方法

- (1) 教育内容は、別紙カリキュラム表のとおりとし、学際的知識の修得を助ける内容とする。
- (2) 原則として本学の専任教官が講師となり、単独あるいは複数の講師が1つの科目を担当する。
- (3) 提供科目は、1学期2単位科目（2時間授業×15回）を原則とする。
- (4) 講義は英語により行い、提供する科目は原則として全学共通科目とする。
- (5) 提供科目は一般の正規課程学生も履修可能とするが、各科目の受講定員は40名とし、プログラム生を優先する。

#### 7 成績評価及び単位認定

- (1) 成績の評価はレポート試験等により行い、担当講師の評点に基づき学業成績書を作成する。プログラム生の所属する学部は、学業成績書に基づき単位認定を行う。
- (2) 京都大学は、学生交流協定に基づいてプログラム生の成績書類を派遣大学に送付する。

#### 8 運 営

- (1) プログラムの実施責任部局は、留学生センターとする。
- (2) プログラムの実施に関する事務は、各部局の協力のもとに学生部留学生課が行う。

### Ⅳ 国際教育プログラム実施体制のあり方

本プログラムでは、カリキュラム表のとおり全学の教官が講師となり、また、学生は全学部<sup>2</sup>に所属する可能性がある。したがって本プログラムを成功裏にスタートさせ、継続して実施していくためには、全学的な協力のもとに進めていく必要があり、この



ための全学レベルの実施委員会を設置する。

また、実施責任部局においては、プログラムの円滑な実施のためプログラムの企画・編成、カリキュラム編成、協定大学との協議等、プログラム全般に関する統括業務や、特別講義の実施、履修指導、文献指導、実地教育などをクラス担任的に行う短期留学生の専門的な指導担当教官を配置する。

上記の業務に伴って生ずる事務に加えて、学生の募集・選考、受け入れに伴う査証取得・宿舍手配・奨学金等の事務、各学部との教務事務の連絡・調整、その他を専門的に処理する事務職員、とくに日本語能力を要件としていない短期留学生に対して英語で対応できる職員の充員も必要不可欠である。

#### V 国際教育プログラム実施のための条件・基盤整備

本プログラムの実施のためには、京都大学において次のような条件整備、基盤整備が必要となる。

- ① 本プログラム提供科目は、複数講師による学際的な内容をもっている。この科目を全学共通科目として提供するにあたっては、単位の認定等につき新たに検討、整備する必要がある。
- ② 本プログラムの提供科目の授業を円滑かつ効率的に行うために、必要な教育用オーディオ・ビジュアル機器を備えた40人規模の専用講義室を整備する。
- ③ 留学生には宿舍が必要となるが、最長でも1年間程度の滞在が想定される短期留学生が、多額の権利金・敷金を要求される民間の下宿・アパートに入居するのは難しい。また、本学の留学生用宿舍である国際交流会館の整備状況は極めて立ち遅れている。このため大学は、新たな国際交流会館の建設に全力を挙げ留学生の住居環境の改善を図るとともに、緊急に短期留学生用の代替宿泊施設の確保に努力しなければならない。

④ 短期留学の奨学金は、財団法人日本国際教育協会の短期留学推進制度の奨学金を活用することとする。この制度の奨学金は、平成8年度から、一般交流（月額8万円）と平和友好交流（月額10万円）となっており、申請する際にプログラム生を優先的に取り扱う配慮を行う。

⑤ 留学生を受け入れる際には、受け入れ手続きの一つとして査証取得が必要となる。短期留学生の査証取得を円滑に行うために、京都大学が機関として身元保証を行う機関保証の制度化を行う。

⑥ 平成8年度前半に、優秀な学生の派遣が期待される協定校等を訪問し、プログラムに関する広報活動と学生の派遣依頼を行う。

⑦ 本プログラムは、受け入れのプログラムであるが、学生交流は相互交流が基本である。本学学生の派遣についても早急な制度化が必要であり、今後検討を進めていくと同時に、諸外国の大学との学生交流協定、とくに授業料相互不徴収に関する学生交流協定を順次整備し、学生の経済的負担の軽減と実質的な交流の活発化を図る。

準備委員会の発足に先立ち、昨年7月、国際交流委員会において、従来、部局間でしか締結できなかった学生交流協定を、大学間においても締結できるように交流協定締結の方針が変更され、授業料相互不徴収規定を含む大学間の学生交流協定を結ぶことが可能となっている。

準備委員会では、こうした準備とこれまでの作業をもとに、平成9年10月からのプログラム開始に向けて、今後、関係資料の作成、諸外国の大学への広報活動、学生募集・選考方法、機関保証制度、全学共通科目として実施する場合の問題点の整理など、詳細な検討を進め、準備に万全を期することとする。



国際教育プログラムカリキュラム表 (案)

科 目 名 ・ サ ブ テ ー マ (開 講 期 ・ 単 位 数)	担 当 教 官
1. 日本の文化と芸術 (半期, 2 単位) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 世界の中の日本語</li> <li>• 近代日本文学—漱石と子規</li> <li>• 日本の古典演劇—文楽と歌舞伎</li> </ul>	文 教 授 宮岡 伯人 総合 助教授 蒲池 美鶴 総合 教 授 小畠 啓邦
2. 日本の社会と思想 (半期, 2 単位) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本の科学哲学</li> <li>• 現代日本社会論</li> <li>• 近代日本における女性社会改良運動家たち</li> </ul>	文 教 授 内井 惣七 文 助教授 松田 素二 総合 助教授 前川 玲子
3. 日本の教育と伝統 (半期, 2 単位) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本の教育制度</li> <li>• 日本の生涯教育</li> <li>• 日本の陶芸における伝統教育</li> <li>• 和紙製造における伝統教育</li> </ul>	教育 教 授 白石 裕 教育 助教授 岩井 八郎 非常勤講師 松井 利夫 非常勤講師 千田 堅吉
4. 日本の法と政治 (半期, 2 単位) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 比較法文化</li> <li>• 日本と国際法</li> <li>• 日本の国際関係</li> <li>• 日本の国内政治の構造</li> </ul>	法 教 授 谷口 安平 法 教 授 安藤 仁介 法 教 授 高坂 正堯 法 教 授 大嶽 秀夫
5. 日本の経済システム (半期, 2 単位) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 政府と企業</li> <li>• 日本の貿易と世界経済</li> <li>• 戦後日本の経済発展</li> </ul>	経済 教 授 吉田 和男 経済 教 授 本山 美彦 経済 助教授 斎藤 誠
6. 日本の経営システム (半期, 2 単位) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 経営戦略</li> <li>• 組織</li> <li>• マーケティング</li> </ul>	経済 教 授 赤岡 功 経済 教 授 田尾 雅夫 経済 教 授 近藤 文男
7. 21世紀の都市 (半期, 2 単位) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 都市の地理</li> <li>• 建築の歴史</li> <li>• 都市における交通</li> <li>• 都市における環境問題</li> <li>• 都市の計画と開発</li> </ul>	総合 教 授 山田 誠 工 教 授 加藤 邦男 工 教 授 飯田 恭敬 環セ 教 授 高月 紘 工 教 授 布野 修司
8. 21世紀と食品 (半期, 2 単位) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 植物改良の見通し</li> <li>• 日本における水産食品の科学と技術の進歩</li> <li>• 我が国の伝統的発酵食品と微生物利用による食品の加工と生産</li> <li>• 栄養と成人病</li> </ul>	農 教 授 池橋 宏 農 教 授 坂口 守彦 農 教 授 清水 昌 医 教 授 清野 裕
9. 日本の自然と地理 (半期, 2 単位) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本の地勢と地震 (日本付近の地震活動)</li> <li>•                   〃 (日本の地勢)</li> <li>• 都市の地震対策</li> <li>• 日本の気象</li> <li>•                   〃</li> <li>• 水害の予知と対策</li> <li>• 日本の植生と森林</li> </ul>	理 教 授 尾池 和夫 理 教 授 岡田 篤正 工 教 授 土岐 憲三 理 教 授 木田 秀次 理 助教授 余田 成男 防災 教 授 井上 和也 生態 助教授 田端 英雄

科目名・サブテーマ（開講期・単位数）	担当教官
10. 情報と社会（半期，2単位） <ul style="list-style-type: none"> <li>情報の処理</li> <li>言語の機械翻訳</li> <li>情報と人間行動</li> <li>情報と都市災害の軽減</li> <li>情報と経済</li> </ul>	総合 助教授 櫻川 貴司 工 教 授 長尾 真 総合 助教授 北山 忍 防災 教 授 河田 恵昭 経研 教 授 森棟 公夫
11. エネルギーと環境（半期，2単位） <ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー需給の現状と将来</li> <li>エネルギー資源の現状と将来</li> <li>地球の温暖化</li> <li>エネルギー変換技術と地球温暖化の抑止</li> <li>地球の砂漠化と緑化</li> <li>環境政策</li> </ul>	工 教 授 新宮 秀夫 工 教 授 西山 孝 理 教 授 廣田 勇 工 教 授 鈴木健二郎 防災 教 授 光田 寧 人環 教 授 北畠 能房
12. ライフ・サイエンス（半期，2単位） <ul style="list-style-type: none"> <li>医科学               <ul style="list-style-type: none"> <li>〃</li> </ul> </li> <li>日本の薬学               <ul style="list-style-type: none"> <li>〃</li> </ul> </li> <li>自然史</li> <li>生物学</li> <li>植物分子生物学の最近の進歩</li> </ul>	医 教 授 本庶 祐 医 教 授 中西 重忠 薬 教 授 本多 義昭 薬 教 授 橋田 充 理 教 授 西田 利貞 理 教 授 竹市 雅俊 農 教 授 大山 莞爾
13. 14. 比較経済論Ⅰ，Ⅱ（各半期，各2単位） <ul style="list-style-type: none"> <li>有効な経済発展システム構築をめぐる</li> <li>重要なシステム・マネジメント能力の向上</li> <li>国際システムとの調整と統合への多様なプロセス</li> </ul>	留セ 教 授 砂村 賢
15. 16. 相関社会学・国際関係論Ⅰ，Ⅱ（各半期，各2単位） <ul style="list-style-type: none"> <li>相関政治・社会・文化論</li> <li>国際交流と文化触変</li> </ul>	留セ 助教授 喜志麻孝子